

令和5年度 第3回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日時 令和6年3月14日(木) 10:00
2. 出席状況 委員8名(川染会長、明吉委員、小須田委員、小林三夫委員
古谷田委員、泉水委員、橋本委員、服部委員)
事務局5名(文化振興課長、文化振興係4名)
3. 傍聴人 傍聴人なし
4. 議題
 - 1 開会
 - 2 大和市文化芸術振興基本計画(第3期)の延伸について
 - 3 大和市文化芸術振興基本計画(第4期)の策定について
 - 4 文化芸術顕彰候補者について ※非公開
 - 5 その他
 - 6 閉会
5. 会議資料
 - 資料1-1 大和市文化芸術振興基本計画(第3期)の延伸について
 - 資料1-2 モニタリング項目の目標値変更(案)
 - 資料1-3 延伸別冊サンプル
 - 資料2 文化芸術振興基本計画(第4期)の策定に向けて
 - 資料3 文化芸術顕彰候補者について

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 審議事項
○市から、「大和市文化芸術振興基本計画(第3期)の延伸について」を説明。

【意見交換】

- | | |
|-----|--|
| 委員 | つる舞の里歴史資料館は、来館者へのおもてなしの心を大切にしてほしい。 |
| 事務局 | つる舞の里歴史資料館では、企画展の開催回数を増やし、来館者数を増やす工夫をしてきた。引き続き対応改善をしていく。 |
| 委員 | 近年展示の工夫がみられる博物館が多くなってきた。
目標値の上昇率が1%/年や2%/年といった定量的ではなく、状況をみながら目標値を変えるまたは数値を維持するという発想も必要。 |
| 委員 | 大学連携、接遇研修、先進的な施設の取り組みを取り入れてほしい。 |
| 委員 | 若者の価値観の変化や世間の流れに乗り遅れないよう、最新の展示方法を取り入れる必要がある。アート100掲載のイベントで参考になるものがあると思うので吸収してほしい。 |
| 委員 | 財政が厳しいと思うが、財源が確保できれば、コンサルタントに委託する方法もある。 |
| 委員 | つる舞の里歴史資料館は資料館だけでなく別の用途にも利用できるとよい。 |

3 審議事項

○市から、「大和市文化芸術振興基本計画（第4期）の策定について」を説明。

【意見交換】

- 委員 令和6年度に計画をたて令和7年度から新計画が開始されるということか。
事務局 そのとおり。
- 委員 目標値の設定方法は、「基準値」を最新の数字に置き換えるのか？
事務局 継続する項目は最新の基準値に置き換える。
- 委員 「毎年1%程度ずつ伸ばす」と記載がある項目と「毎年2%程度ずつ伸ばす」
の項目の違いは何か。設定値に根拠はあるのか。
事務局 過去の実績や目標達成するためにどのような取り組みを行っているかを勘
案しながら設定している。指標を高頻度で変更するのは望ましくないが、指
標として適しているか、より望ましい目標を検討していく。過去の最高値を
維持するという目標の立て方もある。
- 委員 芸術文化には数字では測れないこともある。長期的・多角的な視点が必要。
委員 数値にあらわれる項目がわかりやすい。「感動した」の測定は難しい。
委員 これまではシリウスの使用実績で測定を行ってきたが、これからの目標設定
が難しい。子どものためのコンサートやバリアフリーコンサートなどの取り
組みは素晴らしい。
- 委員 これからは、芸術系の大学と連携する等、幅広い視点で事業を行ってほしい。
委員 予算と人員がネック。民間ボランティアの活用も考えてもよいのでは。
事務局 市主催のイベントは動機付けにはよいが、発展が難しい。文化活動者とそれ
を支える人の支援も大切。市が事業を主催するよりも市がどう支援するか
に軸足をおいていく予定。
- 委員 結果を定量的に測るのはわかりやすく、求められていることだと理解できる
が、将来的には定性的に測れると良い。
- 委員 入場者アンケートへの回答に抵抗感がある層がいるので、アンケートではな
く投票という形をとると回答率が上がる。
- 委員 アンケートの回収率が高いイベントほど、内容も良いことが多い。回収率で
イベントの良し悪しがわかる。
- 委員 大和市内在住の昭和音楽大学の職員に話をきいたところ、市内の文化施設を
知らないと言っていた。住民に関心を持ってもらう工夫が必要。
- 委員 現役世代は多忙で広報誌を見ない。そのような層を文化芸術にどう誘導でき
るか、情報をどう届けるかが課題。
- 委員 若い世代がどう育つかが重要。図書館と大学の司書課程の連携はどうか。
事務局 大学との連携は、部活動の地域移行で検討している。図書館は市の直営では
なく指定管理が運営しており、実施するには調整が必要であるためハードル
が高い。
- 委員 担い手の高齢化が問題。新しい人材が入ってこないため潰れる団体が多い。
子ども、70代が活動しているが中間層がいない。大学連携によってこの中
間層を取り込めるのではないか。
- 委員 若者の声を反映させることが重要。

4 報告事項

○市から、「文化芸術顕彰候補者について」を説明。

— 大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開 —

【意見交換】

特になし

5 その他

○市から、大和市生涯学習振興補助金交付要綱の見直しについて報告。

【意見交換】

委員 補助金を交付された団体は、生涯学習センターまつり・文化祭・芸術祭等複数の事業に出てもいいのか。市で公募を行う事業は、似たようなイベントが多く混乱してしまうのではないか。

事務局 同じ団体が出て問題ない。文化祭は一般公募で絵画・書・写真のみ、芸術祭は部門を限定しない、などの違いがある。

○市から、次回の文化芸術振興審議会開催日程について説明。

○委員より、自身の活動について説明。

6 閉会